

週間感染症情報

2018年40週 2018年10月1日より2018年10月7日まで

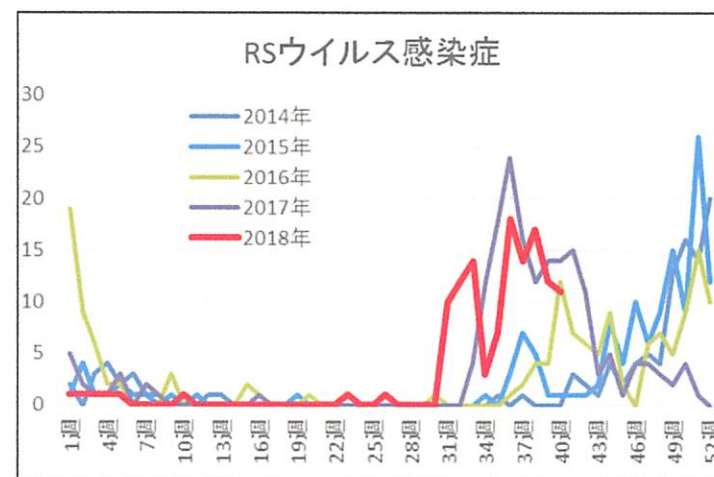
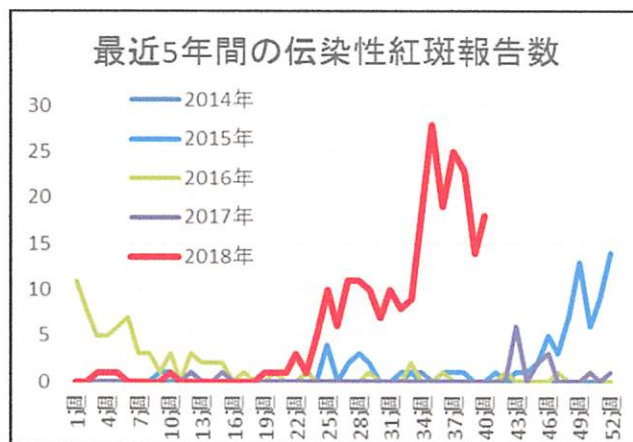
麻疹	
風疹	
水痘(みずぼうそう)	3
ムンプス(おたふくかぜ)	
百日咳	
溶連菌感染症	12
手足口病	15
ヘルパンギーナ	2
伝染性紅斑	18
感染性胃腸炎	14
ロタウイルス(再掲)	
便アデノウイルス(再掲)	
突発性発疹	3
伝染性膿痂疹(とびひ)	6
ヘルペス性口内炎	
アデノウイルス感染症	2
RSウイルス感染症	11
マイコプラズマ感染症	
インフルエンザ(臨床診断含む)	
インフルエンザA	
インフルエンザB	
ヒトメタニューモウイルス	

朝晩涼しくなり、鼻汁・咳の感冒症状の症例が増えてきました。久しぶりの喘息で来院する症例も多いです。手足口病やヘルパンギーナなどいわゆる夏風邪も、年少児で小流行があります。

伝染性紅斑の報告はピークは越えたようですがまだ続いています。今年の報告数は244例となり、2007年152例 2008年158例を大きく越える大流行となりました。岡山県でも風疹患者の報告が2例あります。小児のMRワクチン接種率は95%以上あり、小児での風疹の流行はないと思いますが、成人での発熱・発疹例では風疹との鑑別が必要となるかもしれません。30代から40代の働き盛りの成人男性への麻疹・風疹ワクチン接種が必要です。

感染性胃腸炎の報告は多くありません。寒くなり今後はノロウイルスの流行シーズンに入ります。白色便がでたと保育所より受診を勧められる症例が増えてきました。ロタウイルスだけでなく他のウイルスでも白色便になる事はあり、胆嚢の機能不全で胆汁の排泄が妨げられるためと考えられています。数日で回復しますので特別に心配する必要はありません。全身状態は良好で軟便が数回という事であれば、登園は可能と考えています。

RSウイルス感染症の報告は続いています。感冒ですむ症例も多く、検査は乳児や感染状況を知るためにしています。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)